

台風予報の図表示方法の指針(案) 説明資料

平成18年2月2日

気象庁予報部

1 「台風予報の図表示方法の指針」の目的

背景

台風の予報技術が向上。
台風予報の情報内容が充実(3時間刻みの台風予報など)。

目的

台風防災に必要な情報を国民に誤解なく、わかりやすく、迅速に伝え、的確な防災対応を支援。



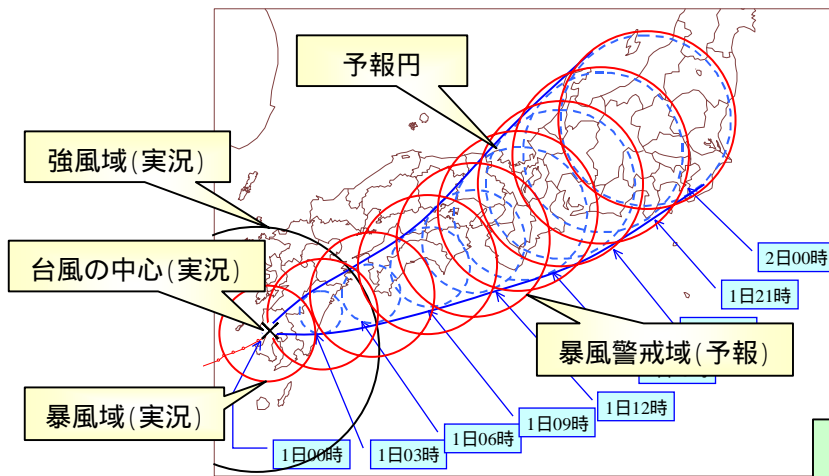
【台風予報の図表示方法の指針】
マスメディアで台風予報を図表示する際の一定の考え方を示す。

2 図表示方法の指針(案)

基本的要件	具体的指針	
暴風に対して警戒必要な範囲を示すこと	(実況部分) 台風の中心位置(×印)、暴風域、強風域を表示する	
	(予報部分) 暴風警戒域を表示する	
台風進路予報についての誤差の範囲を示すこと	予報円を表示する	
予報対象時刻を明示すること		
~ のことを誤解なく、わかりやすく表示すること 特に、複数の対象時刻の予報を1枚の図にまとめて表示する場合	暴風警戒域を実線で、予報円を破線で表示する	
	各時刻の予報円に接する線を実線で表示する	
	予報円・暴風警戒域が込み合う場合	一部時刻の予報円・暴風警戒域を省略できる
	さらに、暴風警戒域が込み合う場合	各時刻の暴風警戒域の円の表示に代えて、暴風警戒域の通過する範囲を実線で表示できる
	付加的な情報を表示する場合	予報円の中心点を表示できる 予報円の中心点を結ぶ線を破線で表示できる ただし、台風の中心がこの点や線上を進むかのような誤解を招かないよう、適切な解説を行う

「暴風域に入る確率の面的情報」は、上記の図表示の追加的情報とする。

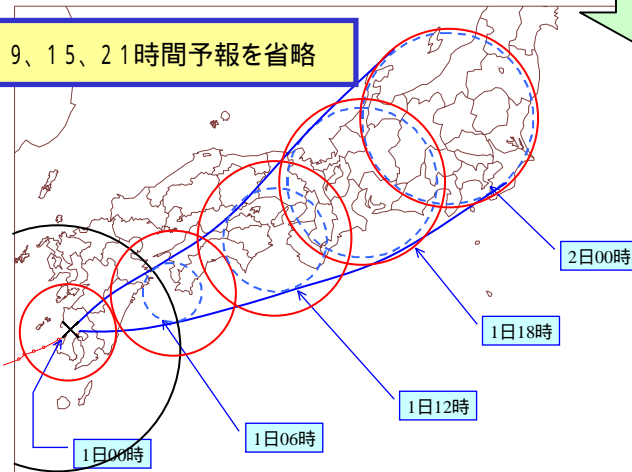
2-1 予報円・暴風警戒域が込み合う場合の例



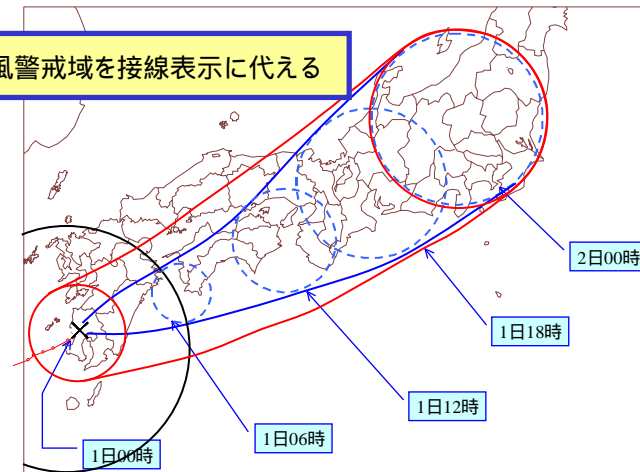
防災上伝えるべき情報をすべて表示

- (実況部分)
台風の中心位置、暴風域、強風域
- (予報部分)
予報円(各時刻の円とその接線)
暴風警戒域(各時刻の円)

例: 3、9、15、21時間予報を省略



暴風警戒域を接線表示に代える



予報円及び暴風警戒域が込み合っ見えにくい場合は、わかりやすさの観点から、一部時刻の表示を省略できる。

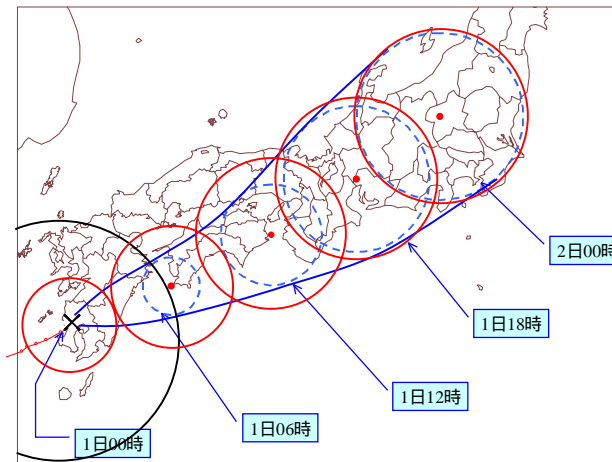
さらに暴風警戒域が込み合っ見えにくい場合は、わかりやすさの観点から、暴風警戒域を接線で表示できる。

2-2 付加的な情報を表示する場合の例

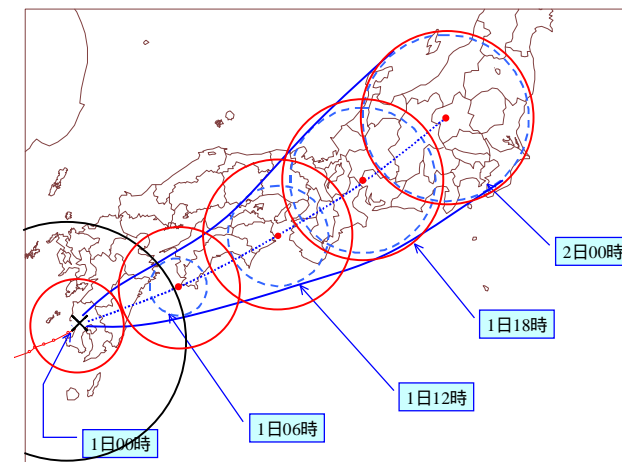
予報円の中心位置の表示を可能に

(表示するメリット)
・台風の進むコース
やタイミングがわかり
やすくなる
・特に警戒が必要な
場所がわかりやすくなる

予報円の中心点を表示



中心点を結ぶ線も表示

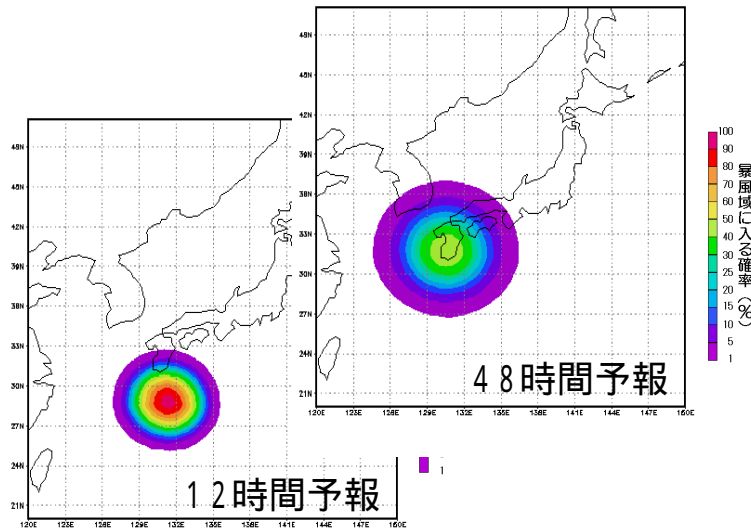


ただし、点や線上を台風が進むかのような誤解を招かないよう、適切な解説を行う。

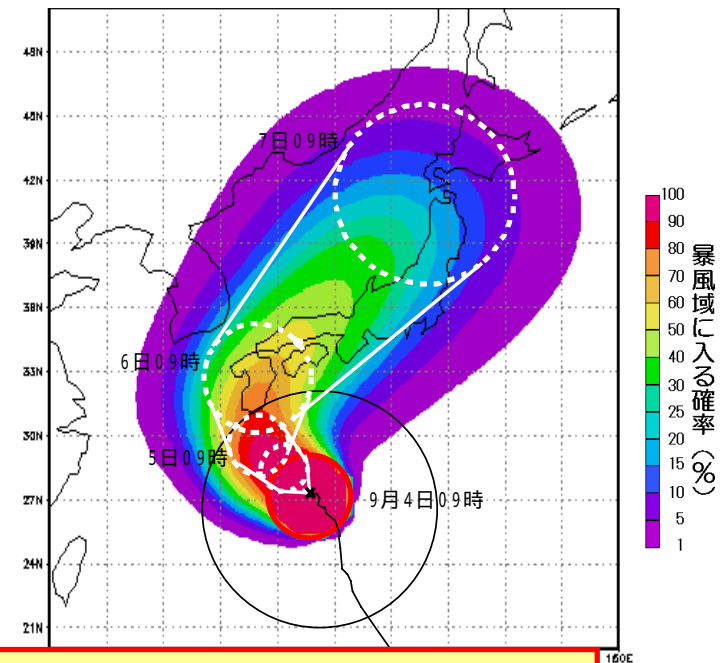
3 「暴風域に入る確率の面的情報」の利用

台風時における細かな防災対応判断を支援する情報として、「暴風域に入る確率の面的情報」を提供する。

72時間先までの
3時間刻みの時間帯毎の情報



0時間から72時間先まで積算した情報
(1枚の図に表示する場合に利用)



0時間から72時間先まで積算した情報利用にあたっての留意点

当面、暴風警戒域を用いた図表示の追加的情報として表示する。
予報対象時刻が後になるほど確率が低くなるのが、台風の勢力が弱まるとの誤解を招かないよう、適切な解説を行う。